

(3) 講師・助言者

① 講師

会津若松市図書館長 渡部 宏
 いわき市教育委員会青少年課長 志賀 昭太郎
 県教育庁社会教育課長 佐藤 利三郎

② 助言者

県教育庁社会教育課員・県南教育事務所員・県少年自然の家職員

(4) 内容

① 講義・討議

「現代つ子と団体活動」
 「少年団体活動の意義と指導者の役割」
 「少年団体の組織と運営」
 「少年団体とレクリエーション活動」
 「少年団体活動の充実策をめぐって」

② 実習

「活動プログラムの立案と展開」
 「室内ゲーム」
 「野外活動」
 「キャンプファイヤー」
 「救急法」
 「集会のもち方」

4 青年団体中級指導者研修会

(1) 趣旨

青年団体の中級指導者として、青年団体の経営に必要な専門的知識・技術について研修し、団体活動について企画・立案・実施ができる能力を養うことを目的とする。

(2) 期日・会場・参加者

- ① 期日 昭和50年7月8日～11日
- ② 会場 福島県海浜青年の家
- ③ 参加者 昭和49年度福島県青年団体指導者研修(前期)修了者並びに前期研修修了相当と認める研修会を修了したものの中から、教育事務所長の推薦を受けたもの 39名

(3) 講師・助言者

仙台YMCA総主事 新子 一哉
 B・S福島連盟事務局長 宮崎 義宣
 郡山女子大学講師 国馬 善郎
 福島県文化センター総務部長 丹野 清栄
 日本OL委員会認定講師 菊地 久雄
 元福島県青少年教育指導員 満山 喜和
 二本松市教育委員会社会教育主事 天野 昭
 県教育庁社会教育課員
 福島県海浜青年の家所員
 県教育庁教育事務所社会教育主事

(4) 内容

- ① 「学習計画の編成と事業の展開」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- ② 「体育・レクリエーションの持ち方」
- ③ 「青年団体の財務」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- ④ 「指導者の使命」Ⅰ・Ⅱ
- ⑤ 「青年団体の組織」
- ⑥ 「青年の生きがい」

⑦ 「国際社会と日本の青年」

⑧ 「野外活動」

5 青年国内研修

(1) 趣旨

勤労青年が郷土振興について諸活動を推進するために、青年の代表を県外に派遣し、教育・文化産業等について、その状況を調査研究し、併せて現地青年との交歓をとおして交流を図り、広い視野にたつて地域活動を推進できる中堅青年の養成を図る。

(2) 実施要項

- ① 実施主体 福島県教育委員会
- ② 協力 北海道教育委員会及び北海道下関係市町村教育委員会
- ③ 派遣先・人員 札幌市・伊達市・函館市
 青年団体活動班 8名
 青年学級・教室活動班 6名
 計 14名
- ④ 研修期日・内容

	事前研修	現地研修
期間	7月30日～8月1日	9月3日～9月9日
場所	福島県海浜青年の家	北海道内
研修概要	<ul style="list-style-type: none"> ○福島県勢の概要 ○福島県の青少年教育と青年活動 ○研修地に関する事前研究 ○各自の研究テーマの予備研究 ○班編成・役割分担 	<ul style="list-style-type: none"> ○北海道の概況及び各研修地の青年教育の現状 ○研修主題に基づく各自の調査研究 ○現地青年との意見・情報等の交換 ○各研修地の諸施設の視察 ○各研修地の産業・文化活動の状況視察

⑤ 参加者の資格

下記の要件を備えるもので、市町村教育委員会教育長並びに県教育庁教育事務所長から推薦を受けたもの。

ア 県内に居住する18歳から25歳未満の勤労青年(未婚)であること。

イ 青年団体・グループ員、少年団体指導員、青年学級教室生で、将来郷土にあって研修の成果を積極的に生かし得ると認められるもの。

ウ 地域の信望厚く、研究心の強い青年であること。

エ 健康状態が良好なもので、胸部及び伝染性の疾患のないもの。

オ 過去において、国内研修に参加していないもの。

⑥ 研究主題

ア 都市及び農村における青年の生活実態について

イ 青年団体の組織・運営・事業の状況と問題点について

ウ 青年学級・教室等の活動状況と問題点について

エ 各自の研修課題に基づく調査研究

6 全国青年学級生大会への参加

(1) 趣旨

全国の青年学級生代表が一堂に会し、相互の交歓を図るとともに、望ましい青年学級の振興を図る。